



## 学習指導要領と評価

「学習指導要領」は、全国のどの地域で教育を受けても一定の水準の教育を受けられるようにするため、文部科学省が学校教育法等に基づき、各学校で教育課程（カリキュラム）を編成する際の基準として定めているものです。郡山小学校でも、この国としての方針に従って教育課程を編成しており、地域の特色を生かすなど実態にも即しながら、以下に挙げる点に留意した指導や評価を行っています。

### 学習指導要領において重視される3つの柱

新学習指導要領では、かつてないほどのスピードで変化する社会情勢に対応することを重視しています。そのため、個々の「生きる力」を育むことに重点が置かれていると言っていいでしょう。特に強調されているのが、多様性への理解や主体性、問題解決能力の育成です。この10年を見ても、テクノロジーの進化により大きく社会が変化してきました。AI やロボット技術の進化により今後も想像を超える変化が起きるでしょうし、過去の踏襲だけでは乗り切れない時代になることは目に見えています。そのため、自ら考えて課題に立ち向かっていける人間の育成が必須です。プログラミング教育が必修化されたことや、ディスカッションやディベートなどを通じたアクティブラーニングに力点が置かれていることから、国としての姿勢が見て取れます。

#### 個別の知識・技能

「何を知っているか、何ができるか」という部分です。各教科で学ぶべき内容について、体系的に理解できていて、応用できる形で頭に入っていることが重視されます。国語・算数・理科・社会・外国語だけではなく、図工・音楽・体育・家庭科などスキルを身につける科目についても、各自が熟達することが目標になります。

#### 思考力・判断力・表現力等

現代社会での「生きる力」の中でも特に重視されている問題解決能力に関する力と言えます。問題を見つけた時に論理的に考えて解決まで導ける力や、仲間と協力しながら問題に取り組むための表現力などの獲得を目標とします。各教科の知識や技能を問題解決に向けて有効に使えることも大切になります。

#### 学びに向かう力・人間性等

教科教育にとらわれない、より広い意味での人間教育についての目標です。多様性を理解して仲間と協力する力や、自分の感情をコントロールする力、優しさや思いやりなど豊かな人間性のベースとなる資質や力を伸ばすことに重点が置かれます。また、そのために学習に主体的な態度を持つことが重要視されます。

※裏面へ続く

..... 切り取り線 .....

学校への御意見・御要望・校長に知らせたいこと など

2021年10月8日（ ）年（ ）組 児童氏名

※匿名でも結構ですが、御連絡が必要な場合等を考え、記名していただけるとありがたいです。

※担任に御提出いただいても、校長室前のポストに直接入れていただいても、校長に直接手渡していただいても、いずれでも結構です。

## 評価について

基本的には学習指導要領の3つの柱である「個別の知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」に対応した形で評価します。学習状況評価の3観点「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」であり、学習指導要領と対応した形です。ただし「主体的に学習に取り組む態度」については、新学習指導要領の「学びに向かう力・人間性等」には対応していません。人間性等については教科教育の中では評価対象とするのが難しいため、学習に対する主体性を切り出して学習状況評価に用いることになっています。

### **知識・技能**

「知識・技能」の観点では、各教科で身につけるべきとされている知識やスキルについて、十分に習得しているかが評価の対象となります。ただし、1問1答形式で測るような単純な知識だけではなく、他の教科の知識とも結びつけて活用できるような概念的な知識も重視されます。教科によっては実験などによる評価を行うなど、教科特性に合わせた評価も重視されます。

### **思考力・表現力・判断力**

「思考力・表現力・判断力」の観点では、「知識・技能」に比べてより広い力を評価することになります。各教科教育の中で課題や問題に向き合って解決していく能力や、友達と協力しながら問題解決の糸口を見つけていく力など幅広い能力が評価対象になります。自らの思いを表現していく能力も評価されます。具体的な評価方法はペーパーテストに限りません。グループでのディスカッションや発表、レポートなど、これも各教科の特性に合わせて評価します。

### **主体的に学習に取り組む態度**

「主体的に学習に取り組む態度」は以前の「関心・意欲・態度」の評価観点に対応するものですが、評価軸はこれまでとは多少違っていています。「関心・意欲・態度」においては、どうしてもノートの取り方や挙手の回数など、児童の性格による部分や形式的なものによって判断することが多くなっていました。「主体的に学習に取り組む態度」においては、さらに深い部分を見ていくことになります。各教科の内容を理解するために、児童が「いかに学習を調整して、知識を習得するために試行錯誤しているか」という、見た目の意欲だけにとらわれない部分も評価していきます。そのために、児童個々の努力を注意深く見取る努力と工夫が必要です。

今日で1学期が終わりました。全校児童一人一人、全員の通信票に目を通しました。担任は上記の共通理解の下で、個々の児童の成長のための指導と評価を行っています。郡山小学校全体、各学年、学級全体の集団としての傾向を考えながら、担任が学級全体の指導を進めていますが、その中でも本校職員は、何よりも一人一人の児童それぞれに焦点を当て、尊重し、注視し、日々個に応じた指導や評価を行うために努力しています。理想と現実という点では、中には40名近い学級もあり、担任一人での対応には限界があって制度上の問題も感じながらではありますが、現在の制度の中で、今後も担任だけでなく全職員で力を合わせて、児童が意欲を持って前向きに学習に取り組める環境を整えていけるよう、可能な限りの努力を続けて参ります。